



公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン

中期戦略(2012年度～2014年度) 振り返り結果

2014年12月

ゴール(ありたい姿)

2014年6月までに、CIJは
明確な付加価値・存在意義のもと、
財政的に安定・経済的に自立し、認知度が高く
貧困の根源的な解決に向けてより貢献度が高い組織となる

1

明確な付加価値・存在意義

- 受益者に対して、「女性と子ども」というテーマに沿った多様なニーズに応えられる支援を提供すること
- 支援者が持っている「社会貢献したい」という想い・ニーズを実現し、「役に立っている」と実感する場を提供すること

2

財政的に安定・経済的に自立

- 戦略的な事業の実施に加えて、内部への十分な投資を可能にする自己資金を確保できていること

3

認知度が高く

- 多くの日本市民がCIJを高い専門性を持った非営利組織として認知しており、その活動に対するイメージが浸透していること
(結果として、多くの市民からの支援を獲得できること)

4

より貢献度の高い組織

- 組織としての目指すべき姿が全体で共有され、個々の業務・行動によって組織全体のパフォーマンスが向上する仕組みがあること
- 組織・プロジェクト・個人の評価制度とPDCA*サイクルが確立されており、過去の実績を次の活動に活かせること
- 組織としての目指すべき姿を達成するための十分な人員体制が整っていること

*Plan, Do, Check, Action

基本戦略 1~2

基本戦略

1

「女性と子ども」というテーマに基づく、
受益者と支援者のニーズが合致した活動の実施

【結果】

計画通りに活動したが、助成金等が獲得できず、新規の海外支援事業にはつながらなかった。

2

東日本大震災の復興支援の完遂と、
国内緊急支援事業の継続有無の決定

【結果】

計画通りに支援を完遂。
緊急対応計画を策定し、国内緊急支援事業の手順を決定。

達成できるビジョン

1

明確な付加価値・存在意義

- 受益者に対して、「女性と子ども」というテーマに沿った多様なニーズに応えられる支援を提供すること
- 支援者が持っている「社会貢献したい」という思い・ニーズを実現し、「役に立っている」と実感できる場を提供すること

【結果】

- 「女性と子ども」というテーマのブランディング化に着手できたが、支援活動の拡大には至らなかった。
- 「役に立っている」と実感できる場の提供を実施。

基本戦略 3~4

基本戦略

達成できるビジョン

3

民間資金の拡大

- 総収入3.6億円
- 民間資金比率が42%
- 個人寄付者1万人の獲得

【結果】

- 総収入1.2億円
- 民間資金比率が60%
- 個人寄付者1,355人 ※

4

ターゲットや内容の明確な定義に基づく、
戦略的な外部コミュニケーションの実施

【結果】

戦略的なコミュニケーションを実施。

2

財政的に安定・経済的に自立

- 戦略的な事業の実施に加えて、内部への十分な投資を可能にする自己資金を確保できていること

【結果】

- 十分な自己資金の確保には至らなかった。

3

認知度が高く

- 多くの日本市民がCIJを高い専門性を持った非営利組織として認知しており、その活動に対するイメージが浸透していること

【結果】

- 若年層の一部で認知とイメージが浸透した。

※目標は外部ポータルサイト経由の寄付者数を含めていたが、当該情報を取得できないことが判明したため、大幅な寄付者数の減少となった。なお、個人寄付の収入対比では、目標4,900万円、実績1,500万円、達成率31%であった。

5

内部管理体制の整備と部門間の連携強化

- 外部人材の活用・管理を通じた業務効率化(ボランティア・インターン等)
- 計画を実現する仕組みの整備(組織・プロジェクト・個人評価、報酬制度の見直し)
- 内部コミュニケーションの強化、役割分担の見直しを通じた組織パフォーマンスの向上

【結果】

- ボランティア・インターン・プロボノの活用・管理を実施。
- 組織・プロジェクトの整備は実施。個人評価、報酬制度の見直しは実施できず。
- 内部コミュニケーションの強化、役割分担の見直しを実施。

4

より貢献度の高い組織

- 組織としての目指すべき姿が全体で共有され、個々の業務・行動によって組織全体のパフォーマンスが向上する仕組みがあること
- 組織・プロジェクト・個人の評価制度とPDCAサイクルが確立されており、過去の実績を次の活動に活かせること
- 組織としての目指すべき姿を達成するための十分な人員体制が整っていること

【結果】

- 中期戦略の浸透でパフォーマンスの向上する仕組みがあった。
- 個人の評価制度を除きPDCAサイクルは確立。
- 十分な人員体制とはできなかった。

中期戦略 2012年度～2014年度 振り返り

Executive Summary

教訓と今後の展開

- 新規の政府系助成金が獲得できず、事業収入・事業支出は目標を大きく下回った。
- 定量・定性での振り返りを行い、問題点を分析した結果、下記の課題を解決する必要がある。
 - 民間資金の拡大と多様な資金調達源の確保
 - 申請書・報告書の質と精度の更なる向上
 - 特定支援国との継続的な連携構築
 - 支援国のジェンダー平等に特化した広報と啓発の強化
 - 国内支援者の再開拓
 - 組織パフォーマンスと事業の第三者評価の実施
 - 公益法人制度の改善
 - 研修機会と業務を通じた職員の成長機会の提供
- 外部環境の変化も考慮して、次期中期戦略計画を策定し実施する。